

資料1

県民アンケート調査結果

平成21年11月

福島県農林水産部森林計画課

目 次

	頁
I 調査の概要	1
II 調査の結果	4
1 福島県内の森林に関して感じていること	4
2 森林の働きに関して大切だと考えること	5
3 森林環境税の周知程度	6
4 森林環境税による取り組みに関して大切だと考えること	7
5 平成23年度以降の森林環境税による取り組み継続に対する考え方	8
6 現在行っている森林環境税を活用した取り組み以外で行ってほしい取り組み	9

●本報告書利用にあたっての注意点

- 1 本文及び図表中の回答者の割合は百分比（％）で表し、小数点以下第2位を四捨五入してある。
- 2 したがって、四捨五入の結果、個々の比率の合計が100％にならないことがある。
また、複数回答の質問では、比率の合計は100％を超えることがある。
- 3 図表中の「n」は回答者総数（該当者への質問の場合は該当者数）のことで、100％が何人に相当するかを示す、比率算出の基数である。

I 調査の概要

1 調査の目的

福島県森林環境税の現行制度が平成22年度に満了することから、現行制度の周知度や平成23年度以降のあり方に対する幅広い県民の意見を把握し、今後のあり方の参考とするため県民アンケートを実施した。

2 実施の概要

- (1) 調査地域 県内一円
- (2) 調査対象 県内に所在する企業及び県内に居住する20歳以上の男女個人
- (3) 調査方法 県、市町村及び教育関係機関においてあらゆる機会(窓口、イベント、会議、回覧等)を捉えて実施
- (4) 調査期間 平成21年4月23日～平成21年8月31日
- (5) 回収状況 総回収数=11,043件 ※下表参照。

内、総有効回収数=10,991件、無効数=52件

《内訳》

①企業調査有効回収数=134件、無効数=6件

②一般調査有効回収数=10,857件、無効数=46件

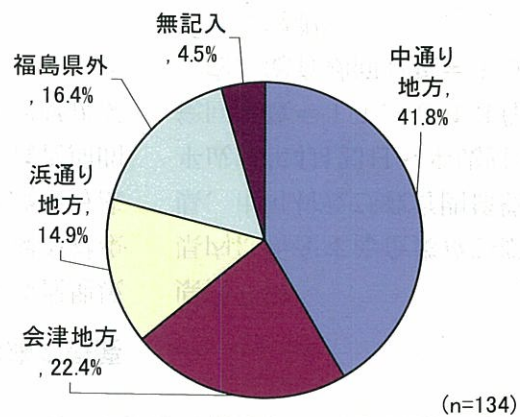
		合計	有効票	無効票
総回答(調査全体)	枚数	11,043	10,991	52
	割合(横%)	100.0%	99.5%	0.5%
企業回答(企業向け調査)	枚数	140	134	6
	割合(横%)	100.0%	95.7%	4.3%
一般回答(個人向け調査)	枚数	10,903	10,857	46
	割合(横%)	100.0%	99.6%	0.4%

3 調査の項目

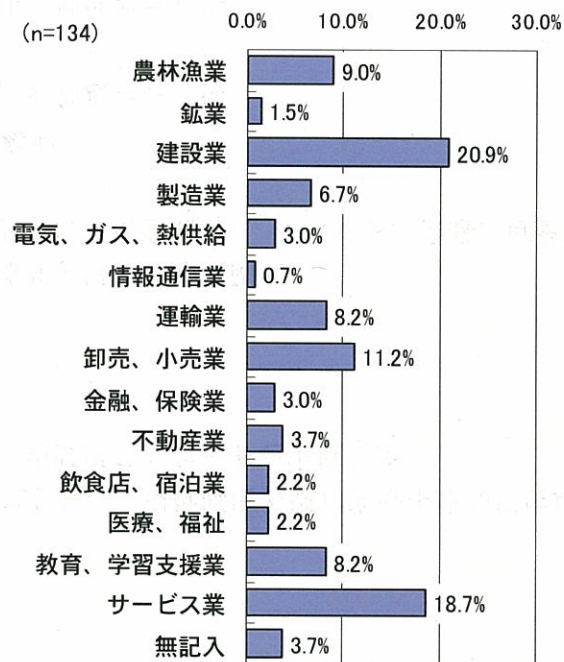
- (1) 対象者の属性（所在地・居住地、業種、性、年代、職業、森林の所有状況）
- (2) 福島県内の森林に関して感じていること
- (3) 森林の働きに関して大切だと考えること
- (4) 森林環境税の周知程度
- (5) 森林環境税による取り組みに関して大切だと考えること
- (6) 平成23年度以降の森林環境税による取り組み継続に対する考え方
- (7) 現在行っている森林環境税を活用した取り組み以外で行ってほしい取り組み

4 回答者の構成

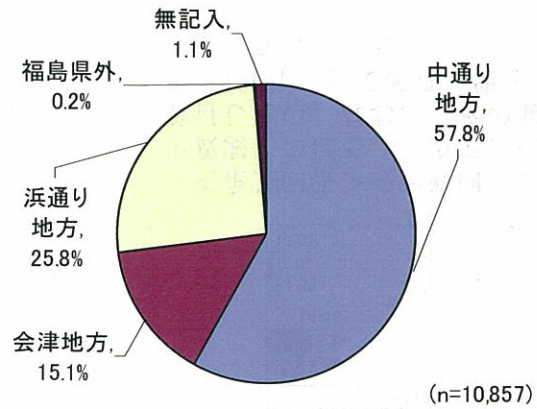
(1) 法人等の所在地（3方部別）



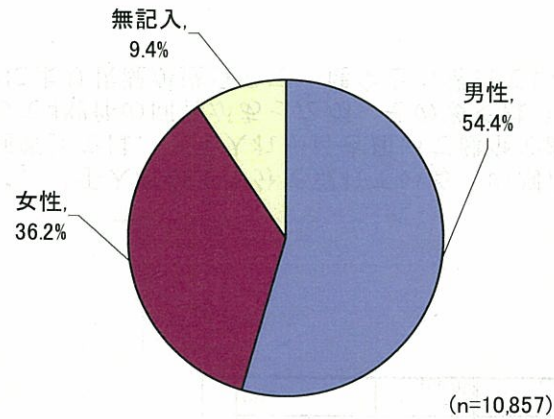
(2) 法人等の業種



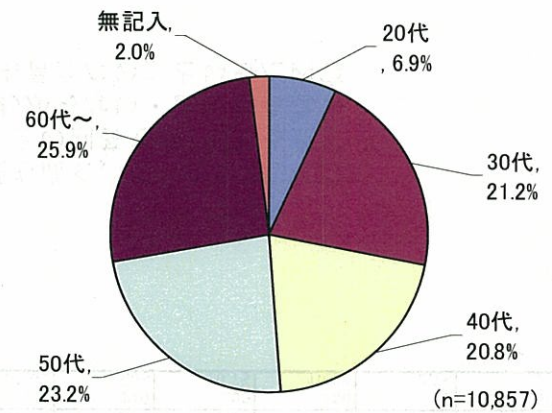
(3) 対象者個人の居住地（3方部別）



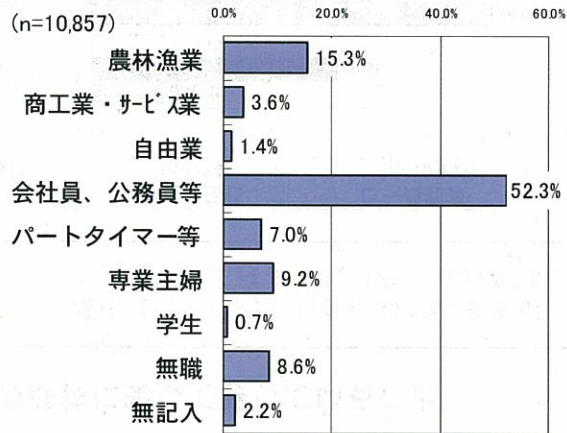
(4) 対象者個人の性



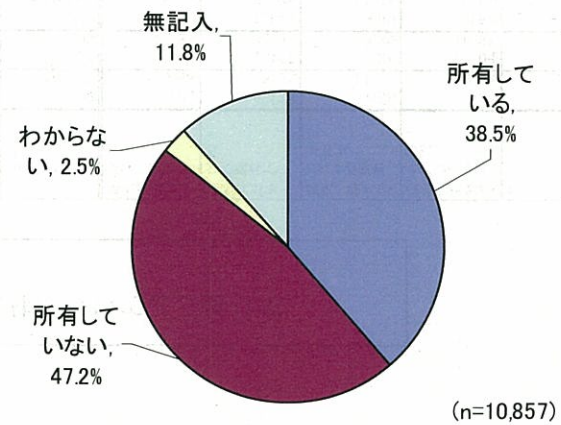
(5) 対象者個人の年代



(6) 対象者個人の職業



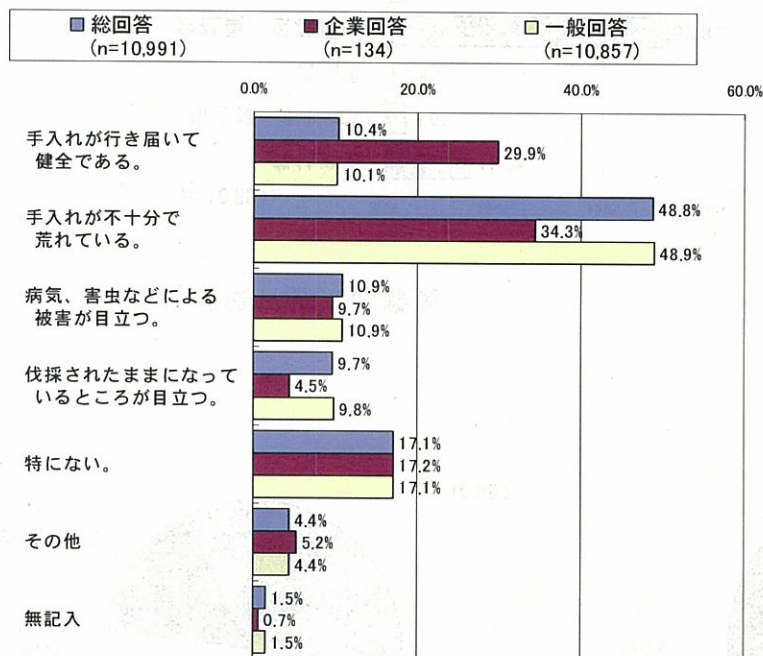
(7) 対象者個人（又は家族）の森林所有状況



II 調査の結果

1 福島県内の森林に関して感じていること

問2 福島県の森林は県土の約7割を占めていますが、あなたは、県内の森林についてどう感じていますか。もっとも当てはまるものを1つお選びください。



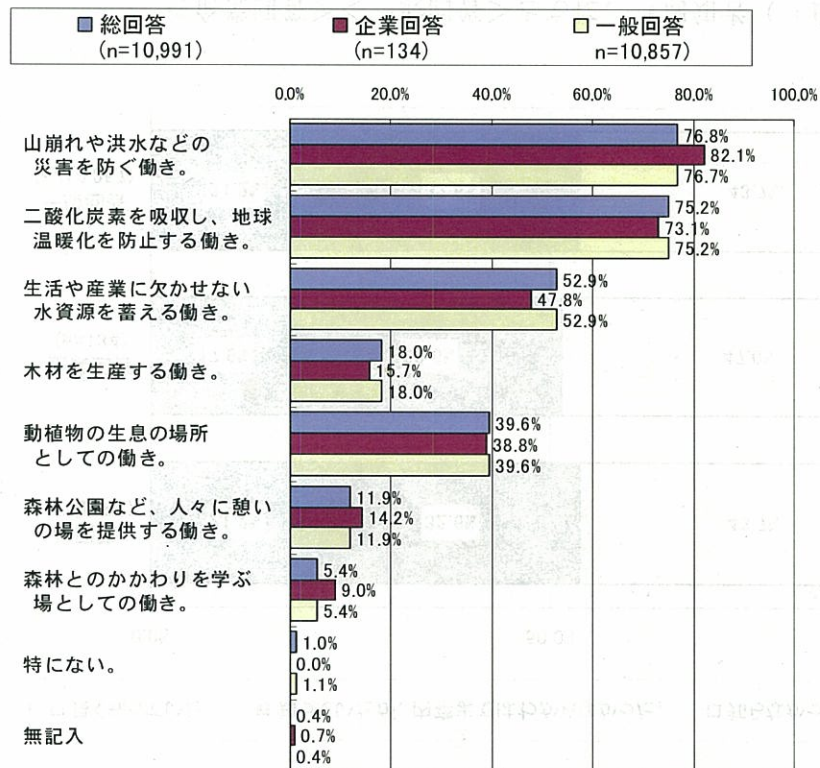
性別	合計 (%ベース)	手入れが行き届いて健全である。	手入れが不十分で荒れている。	病気、害虫などによる被害が目立つ。	伐採されたままになっているところが目立つ。	特にない。	その他	無記入
男性	5,903 100.0%	494 8.4%	3,434 58.2%	656 11.1%	534 9.0%	698 11.8%	183 3.1%	52 0.9%
女性	3,934 100.0%	504 12.8%	1,337 34.0%	386 9.8%	404 10.3%	1,053 26.8%	252 6.4%	95 2.4%
職業別								
農林漁業	1,660 100.0%	139 8.4%	1,144 68.9%	189 11.4%	150 9.0%	75 4.5%	19 1.1%	12 0.7%
商工業・サービス業	388 100.0%	49 12.6%	199 51.3%	38 9.8%	35 9.0%	49 12.6%	22 5.7%	8 2.1%
自由業	157 100.0%	13 8.3%	84 53.5%	22 14.0%	12 7.6%	20 12.7%	13 8.3%	4 2.5%
会社員・公務員等	5,674 100.0%	555 9.8%	2,675 47.1%	596 10.5%	519 9.1%	1,062 18.7%	279 4.9%	72 1.3%
パートタイマー等	761 100.0%	101 13.3%	231 30.4%	60 7.9%	79 10.4%	246 32.3%	49 6.4%	8 1.1%
専業主婦	998 100.0%	131 13.1%	328 32.9%	103 10.3%	120 12.0%	259 26.0%	61 6.1%	30 3.0%
学生	72 100.0%	21 29.2%	11 15.3%	3 4.2%	12 16.7%	23 31.9%	2 2.8%	0 0.0%
無職	932 100.0%	71 7.6%	531 57.0%	140 15.0%	100 10.7%	100 10.7%	25 2.7%	21 2.3%

＜企業回答＞＜一般回答＞ともに、「手入れが不十分で荒れている」の割合が最も高く、＜一般回答＞では半数弱にのぼる。一方で、＜企業回答＞では、「手入れが行き届いて健全である」との回答も約3割ある点に着目したい。なお、「その他」として482件の回答があったが、その多くは『よくわからない・よく知らない等（180件）』であり、他、『場所により状況が違うので、健全とも荒れているとも言えない』といった内容が多くなっている。

＜一般回答＞の性別では、「手入れが不十分で荒れている」との回答は男性の方が多い。対して、女性は「手入れが行き届いて健全である」や「特にない」の回答が男性よりも多くなっている。また、職業別で「手入れが不十分で荒れている」の割合が最も高かったのは農林漁業である。

2 森林の働きに関して大切だと考えること

問3 森林にはいろいろな働きがありますが、あなたは、どれが大切だとお考えですか。
3つまでお選びください。



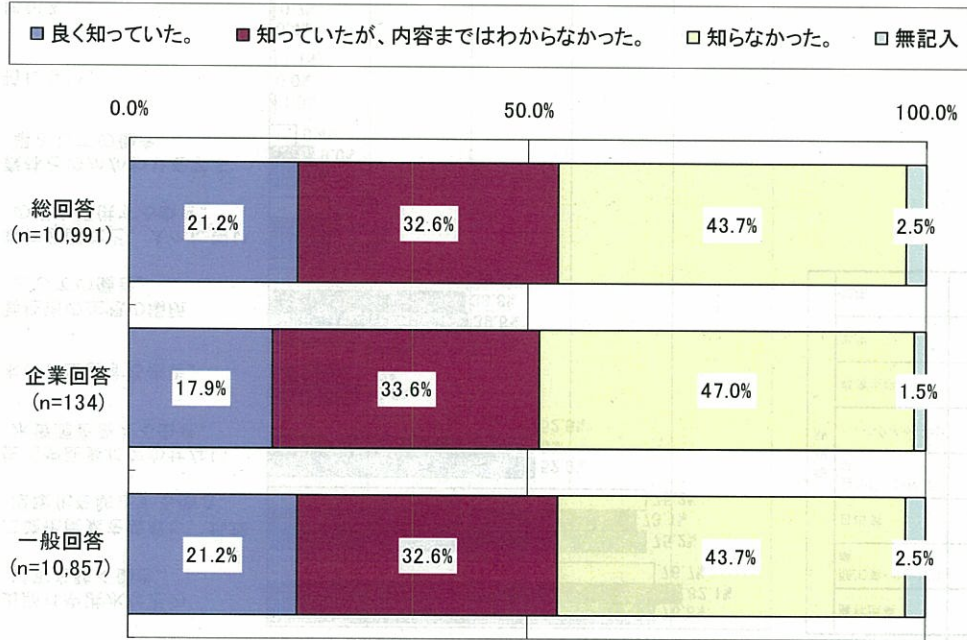
	合計 (%ベース)	山崩れや洪水などの災害を防ぐ働き。	二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き。	生活や産業に欠かせない水資源を蓄える働き。	木材を生産する働き。	動植物の息の場所としての働き。	森林公園など、人々に憩いの場を提供する働き。	森林とのかかわりを学ぶ場としての働き。	特にない。	無記入
農林漁業	1,660 100.0%	1,304 78.6%	1,175 70.8%	1,091 65.7%	493 29.7%	341 20.5%	108 6.5%	57 3.4%	8 0.5%	9 0.5%
商工業・サービス業	388 100.0%	292 75.3%	269 69.3%	199 51.3%	78 20.1%	129 33.2%	51 13.1%	22 5.7%	11 2.8%	1 0.3%
自由業	157 100.0%	122 77.7%	102 65.0%	89 56.7%	29 18.5%	57 36.3%	19 12.1%	9 5.7%	2 1.3%	0 0.0%
会社員、公務員等	5,674 100.0%	4,434 78.1%	4,403 77.6%	3,010 53.0%	899 15.8%	2,532 44.6%	624 11.0%	260 4.6%	38 0.7%	3 0.1%
パートタイマー等	761 100.0%	541 71.1%	607 79.8%	303 39.8%	83 10.9%	406 53.4%	136 17.9%	63 8.3%	10 1.3%	2 0.3%
専業主婦	998 100.0%	750 75.2%	783 78.5%	401 40.2%	117 11.7%	465 46.6%	189 18.9%	96 9.6%	19 1.9%	5 0.5%
学生	72 100.0%	50 69.4%	58 80.6%	26 36.1%	8 11.1%	45 62.5%	6 8.3%	11 15.3%	1 1.4%	0 0.0%
無職	932 100.0%	693 74.4%	629 67.5%	532 57.1%	199 21.4%	269 28.9%	131 14.1%	46 4.9%	24 2.6%	13 1.4%

〈企業回答〉〈一般回答〉ともに、「山崩れや洪水などの災害を防ぐ働き」の割合が最も高い。「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」も同程度の4分の3前後が回答した。
〈企業回答〉と〈一般回答〉との間に、とりわけ大きな傾向差は見あたらない。

職業別では、農林漁業で「生活や産業に欠かせない水資源を蓄える働き。」の割合が他職業よりも顕著に高く、農林漁業従事者の3分の2程度が回答している。

3 森林環境税の周知程度

問4 本県では、森林を健全な状態で次世代に引き継ぐために、平成18年度から森林環境税を納めていただき、森林整備などの取り組みを行っています。
あなたは、この森林環境税を知っていましたか。1つお選びください。



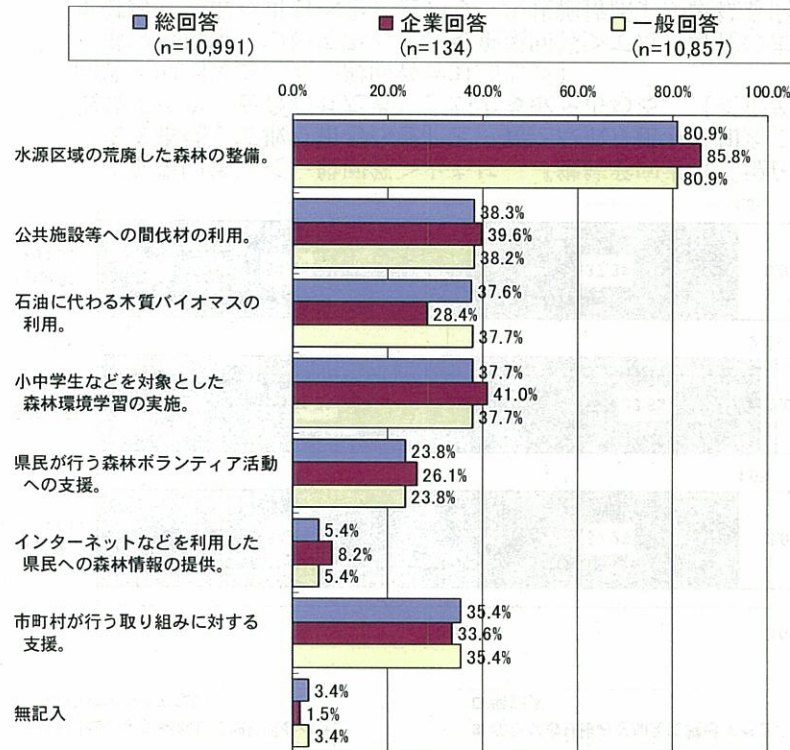
		合計 (%ベース)	良く知っていた	知っていたが、内容まではわからなかった	知らなかった	無記入
性別	男性	5,903 100.0%	1,713 29.0%	2,246 38.0%	1,795 30.4%	149 2.5%
	女性	3,934 100.0%	303 7.7%	934 23.7%	2,606 66.2%	91 2.3%
職業別	農林漁業	1,660 100.0%	496 29.9%	751 45.2%	358 21.6%	55 3.3%
	商工業・サービス業	388 100.0%	74 19.1%	124 32.0%	178 45.9%	12 3.1%
	自由業	157 100.0%	28 17.8%	51 32.5%	73 46.5%	5 3.2%
	会社員、公務員等	5,674 100.0%	1,382 24.4%	1,813 32.0%	2,376 41.9%	103 1.8%
	パートタイマー等	761 100.0%	39 5.1%	142 18.7%	562 73.9%	18 2.4%
	専業主婦	998 100.0%	43 4.3%	228 22.8%	701 70.2%	26 2.6%
	学生	72 100.0%	3 4.2%	7 9.7%	61 84.7%	1 1.4%
	無職	932 100.0%	190 20.4%	342 36.7%	359 38.5%	41 4.4%

＜企業回答＞＜一般回答＞ともに、『周知者（「良く知っていた」と「知っていたが、内容まではわからなかった」を合わせた者）』が半数を超える。【＜企業回答＝51.5％＞、＜一般回答＝53.8％＞】

周知者の割合は、女性よりも男性の方が圧倒的に高くなっている。【男性＝67.0％、女性＝31.4％】
また、職業別では農林漁業の4人に3人（75.1％）が周知している。

4 森林環境税による取り組みに関して大切だと考えること

問5 森林環境税では下記の取り組みをおこなっていますが、あなたは、どれが大切だとお考えですか。3つまでお選びください。



	合計 (%ベース)	水源区域の荒廃した森林の整備。	公共施設等への間伐材の利用。	石油に代わる木質バイオマスの利用。	小中学生などを対象とした森林環境学習の実施。	県民が行う森林ボランティア活動への支援。	インターネットなどを利用した県民への森林情報の提供。	市町村が行う取り組みに対する支援。	無記入
農林漁業	1,660 100.0%	1,420 85.5%	828 49.9%	726 43.7%	419 25.2%	255 15.4%	75 4.5%	581 35.0%	62 3.7%
商工業・サービス業	388 100.0%	297 76.5%	157 40.5%	150 38.7%	132 34.0%	101 26.0%	26 6.7%	121 31.2%	15 3.9%
自由業	157 100.0%	131 83.4%	69 43.9%	66 42.0%	59 37.6%	32 20.4%	13 8.3%	41 26.1%	6 3.8%
会社員、公務員等	5,674 100.0%	4,673 82.4%	1,995 35.2%	2,094 36.9%	2,301 40.6%	1,429 25.2%	284 5.0%	2,112 37.2%	141 2.5%
パートタイマー等	761 100.0%	572 75.2%	260 34.2%	280 36.8%	350 46.0%	214 28.1%	53 7.0%	241 31.7%	31 4.1%
専業主婦	998 100.0%	736 73.7%	388 38.9%	356 35.7%	433 43.4%	261 26.2%	67 6.7%	304 30.5%	39 3.9%
学生	72 100.0%	57 79.2%	19 26.4%	40 55.6%	26 36.1%	24 33.3%	5 6.9%	18 25.0%	1 1.4%
無職	932 100.0%	734 78.8%	363 38.9%	315 33.8%	307 32.9%	227 24.4%	50 5.4%	368 39.5%	57 6.1%

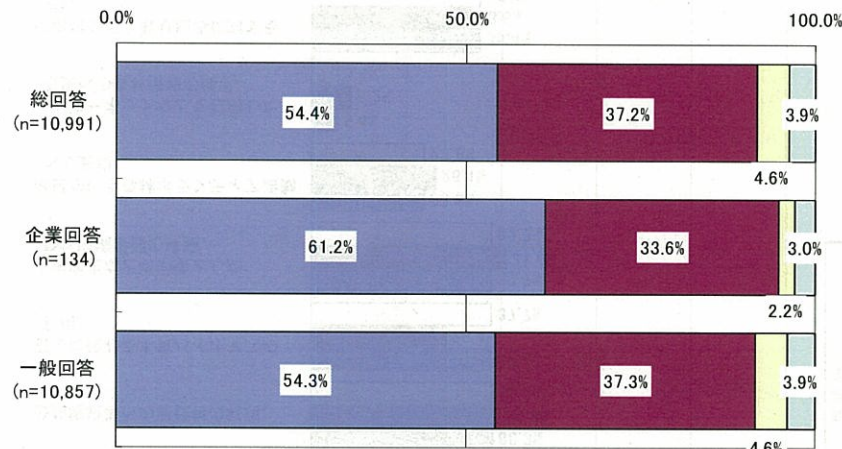
<企業回答><一般回答>ともに、「水源区域の荒廃した森林の整備」の割合が圧倒的に高い。以降、割合は4割前後まで下がり、「公共施設等への間伐材の利用」や「小中学生などを対象とした森林環境学習の実施」が続く。「石油に代わる木質バイオマスの利用」も<一般回答>では4割弱あるが、<企業回答>では3割弱にとどまる。調査対象による差異が比較的大きな取り組みである。

いずれの属性別にみても「水源区域の荒廃した森林の整備」が第一位の重要取り組みであるが、職業別の農林漁業では、「公共施設等への間伐材の利用」への取り組みも大切と考える人が半数いる。

5 平成23年度以降の森林環境税による取り組み継続に対する考え方

問6 森林環境税による取り組みは、平成18年度から平成22年度までの5年間行うこととしていますが、あなたは、平成23年度以降についてどのようにお考えですか。1つお選びください。

■ 現在のまま継続して取り組むべき。 ■ 新たな取り組みを加えて継続すべき。
□ 継続すべきでない。 □ 無記入



＜企業回答＞＜一般回答＞ともに、『継続意向者（「現在のまま継続して取り組むべき」と「新たな取り組みを加えて継続すべき」を合わせた者）』が大多数を占める。【＜企業回答＝94.8%＞、＜一般回答＝91.6%＞】

継続の形態についてみると、＜企業回答＞では「現在のまま継続して取り組むべき」という『現状維持派』が継続意向者の3分の2程度を占めているのに対し、＜一般回答＞では「新たな取り組みを加えて継続すべき」という『新規付加維持派』の割合が高くなる。

いずれの属性別にみても『継続意向者』が大多数を占めている。

職業別の自由業では、『現状維持派』と『新規付加維持派』の割合が拮抗している。

	合計 (%ベース)	現在のまま継続して取り組むべき。	新たな取り組みを加えて継続すべき。	継続すべきでない。	無記入
農林漁業	1,660 100.0%	973 58.6%	561 33.8%	40 2.4%	86 5.2%
商工業・サービス業	388 100.0%	224 57.7%	129 33.2%	19 4.9%	16 4.1%
自由業	157 100.0%	72 45.9%	68 43.3%	9 5.7%	8 5.1%
職員、公務員等	5,674 100.0%	2,969 52.3%	2,261 39.8%	310 5.5%	134 2.4%
パートタイマー等	761 100.0%	434 57.0%	266 35.0%	30 3.9%	31 4.1%
専業主婦	998 100.0%	557 55.8%	345 34.6%	46 4.6%	50 5.0%
学生	72 100.0%	42 58.3%	23 31.9%	5 6.9%	2 2.8%
無職	932 100.0%	505 54.2%	328 35.2%	32 3.4%	67 7.2%

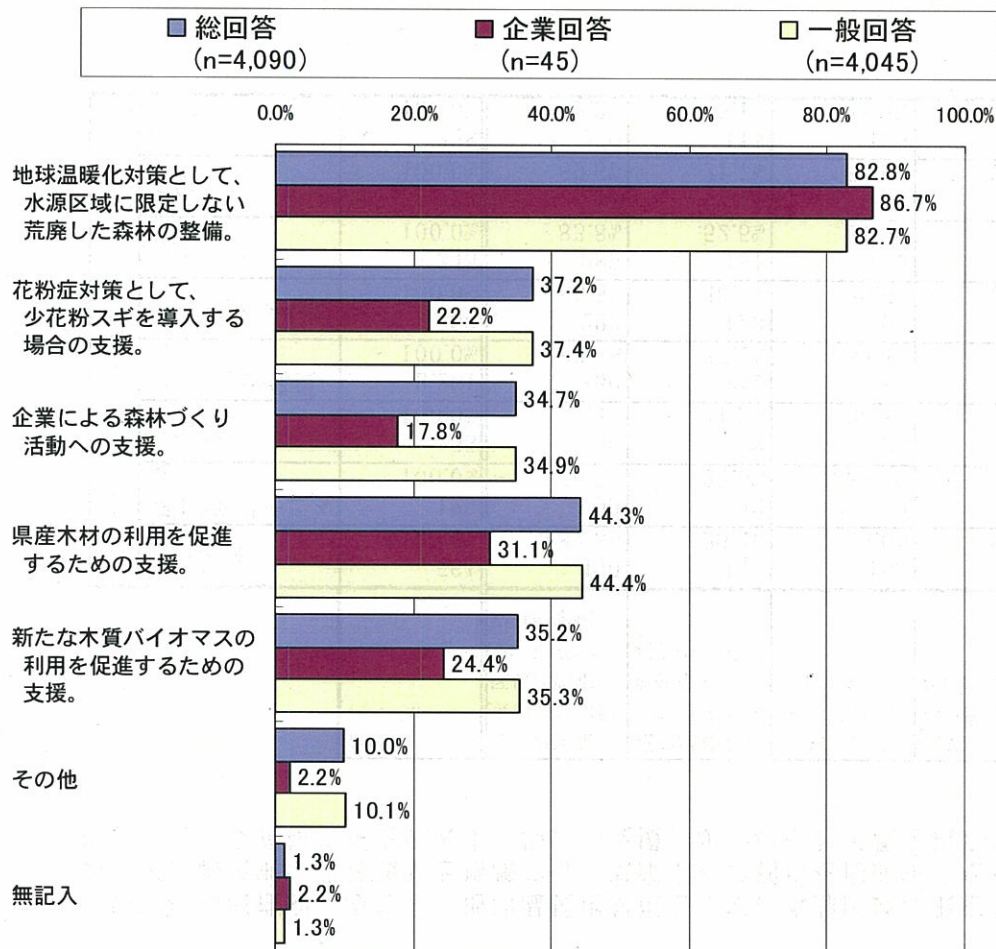
＜問6で「3 継続すべきでない。」を選んだ方に＞
質問は以上ですが、その理由をお聞かせください。

また、当設問で「3 継続すべきでない。」を選んだ対象者にはその理由を聞いた。

＜企業回答＞＜一般回答＞合わせて該当者は502件、その多くは『よくわからない・理由なし等（160件）』であり、他、『必要性を疑問視する意見』、『税率や金額の高さへの不満』、『取り組み効果の分かり難さへの不満』、『使途の不明瞭さへの不満』等々といった意見があった。

6 現在行っている森林環境税を活用した取り組み以外で行ってほしい取り組み

問7 問6で2番を選択した方に質問します。あなたは、問5の取組み以外に、森林環境税を活用して、どの様な取り組みを行ってほしいとお考えですか。3つまでお選びください。



全設問で「2 新たな取り組みを加えて継続すべき。」を選んだ対象者にはどのような新たな取り組みを行ってほしいか聞いた。

〈企業回答〉〈一般回答〉合わせて該当者は4,090件、〈企業回答〉〈一般回答〉ともに、「地球温暖化対策として、水源区域に限定しない荒廃した森林の整備」の割合がかなり高い。以降、〈企業回答〉は、割合が3割程度以下まで下がる。

〈一般回答〉は、「県産木材の利用を促進するための支援」が4割台で次ぐ。

全般的に調査対象による差異（取り組みへの要望）が比較的明確にあらわれた設問である。

なお、「その他」として409件の回答があった。その要望は様々であるが、代表的なものとして、『環境教育の充実・支援』、『全般的な花粉対策』、『間伐材の利用促進支援』、『広葉樹の植林や利用促進・支援』、『松くい虫ほか害虫対策』、『森林公園等の整備』、『林業従事者の育成と支援』、『水源地域の整備』等の意見があった。

いずれの属性別にみても「地球温暖化対策として、水源区域に限定しない荒廃した森林の整備」が第一位であるが、職業別の農林漁業と無職では「県産木材の利用を促進するための支援」が、専業主婦では「花粉症対策として、少花粉スギを導入する場合の支援」がそれぞれ半数を超えている。

		合計 (%ベース)	地球温暖化対策として、水源区域に限定しない荒廃した森林の整備。	花粉症対策として、少花粉スギを導入する場合の支援。	企業による森林づくり活動への支援。	県産木材の利用を促進するための支援。	新たな木質バイオマスの利用を促進するための支援。	その他	無記入
職業別	農林漁業	561 100.0%	490 87.3%	148 26.4%	185 33.0%	344 61.3%	234 41.7%	54 9.6%	13 2.3%
	商工業・サービス業	129 100.0%	99 76.7%	42 32.6%	50 38.8%	60 46.5%	51 39.5%	12 9.3%	3 2.3%
	自由業	68 100.0%	56 82.4%	28 41.2%	25 36.8%	32 47.1%	23 33.8%	6 8.8%	1 1.5%
	会社員、公務員等	2,261 100.0%	1,860 82.3%	842 37.2%	783 34.6%	937 41.4%	774 34.2%	274 12.1%	24 1.1%
	パートタイマー等	266 100.0%	222 83.5%	123 46.2%	97 36.5%	89 33.5%	96 36.1%	18 6.8%	1 0.4%
	専業主婦	345 100.0%	289 83.8%	181 52.5%	110 31.9%	130 37.7%	110 31.9%	14 4.1%	3 0.9%
	学生	23 100.0%	16 69.6%	5 21.7%	14 60.9%	6 26.1%	5 21.7%	2 8.7%	0 0.0%
	無職	328 100.0%	270 82.3%	115 35.1%	126 38.4%	174 53.0%	115 35.1%	24 7.3%	9 2.7%